

# 社会とともに



## 未来を担う次世代のために

日産は、利益ある成長を遂げながら将来に向けて持続可能な企業であることを目指しています。同時に、日産が責任を果たすべき社会の持続可能性にも貢献していきたいと考えています。そして、従来から「企業市民としての活動」を大切にしてきました。日産が掲げるビジョン「人々の生活を豊かに」のもと、豊かな社会の実現のために日産ができることを考えながら、息の長い企業市民活動を実践していきます。

### より良い企業市民として 日産の社会貢献活動

日産は、次世代に向けた持続可能性の実現のために、「教育への支援」「環境への配慮」「人道支援」といった分野を中心に、企業市民としての活動を行っています。さまざまな教育支援や、社会との共生のための環境活動への支援、また災害復興支援やその他の社会問題への人道的な対応などは、どれも未来への投資であると、日産は考えています。

活動にあたっては、グローバル企業として、世界各地の日産の事業所が、同じビジョンを共有しながら、それぞれの国や地域で求められている活動を実施しています。社会の持続可能性への貢献という目的はひとつでも、具体的な課題は、地域や社会によって少しずつ異なっているからです。事業所近隣の地域

では、投資、雇用の創出などの経済的な貢献はもとより、社会的な貢献も行うことで、コミュニティとのより強力なパートナーシップを構築しています。

もちろん、国や地域を越えてグローバルに取り組むべき課題もあります。グローバルな考え方と各地域に最適な活動のバランスをとりながら、日産らしい社会への貢献を考えていきます。そのために、グローバルな連携の強化にも取り組み始めました。グローバル本社が中心となり、各地域での活動実態の把握や活動事例の交換なども行っていきます。

企業の社会貢献への取り組み方には、無限の可能性がありますが、日産は次のような点を大切にしています。

1点目は、社員の自発的な参加意識を育てること。社員による日産プログラムの運営や、社員一人ひとりによる社会活動への参加を支援することなどです。より多くの日産社員が企業市民意識を持つことにより、より大きな貢献の力が生まれると考えています。

2点目として、会社の強みや特性を生かせる活動を考えること。金銭的な支援だけではなく、ノウハウや資産の活用など本業での資源を生かすことによって、より持続的な活動ができると考えるからです。

3点目は、より多くの専門的知識を持つNPOやNGOの方々との協働の可能性を探っていくこと。これにより、日産の社会貢献活動がさらに実りあるものになることを願っています。



### グローバル推進体制





子どもたちの心のケアを  
目的とした移動図書館(タイ)

### 現地で必要とされている支援を 大規模災害時の初動支援と復興支援

大規模災害発生時の支援も重要な活動です。災害発生直後の迅速な支援も大切ですが、長い時間がかかる復興活動への支援も忘れることができません。日産は、被害を受けた現地の実態をできるだけ正確に把握し、本当に必要とされている支援を提供することが大切だと考えています。

2004年12月にスマトラ沖地震およびインド洋大津波が発生した際、災害発生直後に、グローバル本社において会社としての支援を決定しました。その一部で緊急初動支援を行

いましたが、多くの部分が被災地の長期的な復興活動に充てられました。支援内容を決定するにあたっては、社員による被災地視察や、現場の活動団体からの情報収集を行いました。

2005年10月に発生したパキスタン大地震の際にも、グローバル本社で義援金の拠出を決定し、その資金は、NGO ジャパンプラットフォームを通じて、生活援助物資の配給、避難所の設置などに活用されました。

災害緊急支援にあたっては、グローバル本社だけではなく、各地域本社や各国事務所においても、被災の規模や場所などに応じて、もっとも適当な事業所による支援、社員による支援活動や募金などを行っています。

### 日産のスマトラ沖地震・インド洋大津波被災地支援

**アジア被災地域**：初動支援寄付

NGO ジャパンプラットフォーム

**アジア被災地域**：復興活動への寄付

UNHCR国連難民高等弁務官事務所

**インド**：子どもの心のケア施設

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン



インドでは、被災した子どもたちの精神・心理的支援を行う施設の建設に協力しています。すでにケアセンターが6カ所で着工され、間もなくその運営を開始します。それらの施設では、5歳までの子どもたちを対象に教育、給食、予防接種などを提供しているほか、両親を対象にしたカウンセリングも行う予定です。

**スリランカ**：子どもの精神サポートプログラム

財団法人 ケア・インターナショナル・ジャパン

**アジア被災地域**：初動支援寄付

日本赤十字社

**タイ**：子どもたちの移動図書館活動

社団法人 シャンティ国際ボランティア会



タイにおいて、子どもたちの心のケアを目的とした移動図書館事業に寄付を行いました。実際に使用される車両、「アーバン(日本名キャラバン)」に適切な改造を施して提供、子どもたちの心のケアに活用されています。主にタイ南部の被害の大きかった地域で活躍し、子どもたちや被災者の家族が笑顔を取り戻し、希望を持って復興に取り組めるような環境づくりのお手伝いをしています。

**インドネシア**：車両12台を提供

国連世界食糧計画(WFP)



2005年12月、被災地に食糧物資を運ぶ活動を行っている国連世界食糧計画(WFP)の災害復興支援活動に賛同。現地販売会社であるインドネシア日産を通じて12台の車両を寄贈しました。それらの車両は現在、被災地への物資輸送手段として地域社会に根ざして活躍しています。



ハリケーン被害に対し、米赤十字に50万ドルを寄付(米国)

## 北米での社会貢献活動

### ハリケーン・カトリーナの被災者支援

2005年8月末、米国南東部をハリケーン・カトリーナが襲いました。北米日産会社はただちに緊急救援活動に参加し、その後も復興に取り組む被災地の人びとを支援するため、義援金と緊急援助物資を提供しました。

救援活動の柱のひとつとして、ミシシッピ州緊急事態管理庁(MEMA)に大型トラック「タイタン」と大型SUV「アルマーダ」を計50台提供。1ドルでリースしたこれらの車両はMEMAによってただちに被災地に送られ、人や物資の輸送に役立てられました。停電に見舞われたミシシッピ州キャントン工場の社員には200台の発電機が贈られたほか、米国赤十字社への募金活動として、社員による募金額と同等の資金を会社が拠出することとし、募金は総額で50万ドルに達しました。さらに「日産災害救援基金」という非営利の慈善事業も立ち上げました。集められた資金は、自然災害により被災した日産社員とその家族への復興支援に充てられることになっています。

災害から3週間後には、北米日産からテキサス州ダラスの「救世軍」に2万7,000ドル以上とトラック1台分の物資を提供し、テキサスに一時避難していた被災者の支援に役立てられました。援助物資は、飲料水や缶詰、ベビーフードやおむつ、新しい衣類やトランクなど多岐にわたり、ダラスをはじめテネシーや南カリフォルニアなど全米各地の日産社員から寄付されたものでした。さらに、社員によって集められた募金は数千ドルに上りました。

このほか、米国日産販売金融会社が「米国金融サービス協会教育基金」と共同で、被災者の経済的自立に役立つ情報を載せたパンフレットを作成。テキサス州内の救世軍避難所で配布しました。

### NGOとの連携で地域のニーズに応える

#### ハビタット・フォー・ヒューマンティの救援活動に協力

北米日産会社は、ハリケーン・カトリーナ被災者に対する支援活動の一環として、NGO「ハビタット・フォー・ヒューマンティ」に資金と物資を提供しました。ハビタットは、安価な住宅の提供が貧困撲滅につながるとして、世界中で20万戸以上の住宅を建設。ハリケーン襲来後は被災者の住宅建設に尽力していました。

北米日産はこの活動を支援するため、新年の贈り物として大型トラック「タイタン」50台を提供しました。日産キャントン工場で製造されたこれらのトラックは、販売価格にすると総額100万ドル以上になります。「タイタン」はハリケーンで失われたハビタットの車両に代わって、復興支援に大きな役割を果たしました。

2005年夏には、ミシシッピ州マジソン郡で活動するハビタットに、北米日産が企業としては最高となる1万ドルを寄付しました。また、同年10月には社員がハビタットのスタッフと協力し、現地で2戸の住宅を建設しました。



定住居を提供するプログラムへの協賛(米国)



飲酒運転撲滅を目指すチャリティウォーキングプログラム(米国)

### MADD：チャリティのためのウォーキング・プログラム

2005年9月、北米日産会社は飲酒運転の撲滅に取り組むNPO「MADD」(Mothers Against Drunk Driving)が実施する「Strides for Change 5K」というウォーキング・プログラムのスポンサーになりました。この活動は、歩く楽しみを通じて飲酒運転撲滅のための呼びかけや募金活動、被害者支援、未成年者の飲酒防止をうながすことを目的としています。年末までに全米10都市で開催され、1万人以上が参加して総額110万ドル以上の資金を集めました。

この活動は、MADDが個人や企業と連携して地域社会の安全に取り組もうと、2004年に始まりました。参加者は10人以上が一組となり、チームごとに100ドル以上

の募金獲得を目指します。2005年には日産が安全運転を呼びかけるイベントを併催し、デモンストレーションやカード配布などを通じてさまざまな情報を提供しました。

MADDは全米に600の支部を持ち、会員数200万人以上を誇る米国有数の団体です。日産はドライバーの意識向上をうながす活動を安全対策の一環ととらえ、MADDに出資しています。米国では、飲酒運転による交通事故で年間1万7,000人が死亡、50万人以上が負傷しています。そして犠牲者の多くは子どもたちです。MADDは2004年、飲酒事故による犠牲者とその遺族3万1,000人以上を支援しました。日産は今後もMADDの活動を支援し、2006年も引き続きプログラム開催のパートナーとして協力する予定です。

## Messages for Our Stakeholders



北米日産会社(米国)  
広報部 ゼネラルマネージャー  
フレッド  
スタンディッシュ

### ハリケーン被災への緊急支援、復興活動に協力

北米日産会社はこれまで、社会貢献の一環としてさまざまな支援活動を行ってきました。その姿勢は、昨秋ハリケーン「カトリーナ」と「リタ」がメキシコ湾岸を襲った際にも、発生から短時間のうちに発揮されました。私たちはただちにニーズを把握し、全米の日産社員があらゆるレベルで迅速に対応しました。救助活動向け車両の提供、米国赤十字社への50万ドルの寄付、非営利の災害救助基金の設立などに加え、社員たちはハリケーン被災者に衣料品やその他の緊急物資を寄贈しました。

ハリケーンから5ヵ月後、日産の支援活動はより長期的な復興へとシフトし、被災者向け住宅の建設作業を支援するためNGO「ハビタット・フォー・ヒューマニティ」に大型ピックアップトラック「タイタン」50台を提供しました。こうしたプログラムは、「人々の生活を豊かに」という日産の願いを、まさに行動で示したものであるでしょう。



東京で毎年開催している「ニッサンゆかいな絵本と童話展」



日産デザイン オフサイトインターンシップ

## 日本での社会貢献活動

日本では、「教育への支援」や「環境への配慮」に重点をおき、日産独自のプログラムやNPOとパートナーシップを組んだ活動などを継続的に行っています。

### 次世代を担う子ども、若者への支援

#### 子どもの創造性を育む「ニッサン童話と絵本のグランプリ」

次世代を担う子どもたちに、夢や想像力あふれる童話や絵本を届けようと、日産自動車(株)では、1984年より(財)大阪国際児童文学館と協力し、アマチュア作家を対象にした「ニッサン童話と絵本のグランプリ」を実施しています。22回目を迎えた2005年度は、日本全国から約3,000編の童話・絵本が寄せられました。童話、絵本それぞれの大賞作品は、出版され書店で販売されるほか、全国の公立図書館や事業所近隣の幼稚園などへ寄贈しています。

「ニッサンゆかいな絵本と童話展」は、子どもたちが想像力を発揮して楽しめる場として、1992年から東京・青山のこどもの城において毎年開催しています。会場では、童話や絵本作品を紹介するほか、社員ボランティアによって子どもたちがモノづくりの楽しさを体験できるワークショップも実施しています。

#### 未来を創る若者への投資「日産NPOラーニング奨学金制度」

日産自動車(株)では、NPOとパートナーシップを組み、1998年より「日産NPOラーニング奨学金制度」を実施しています。NPOでの仕事を体験したいと希望する大学生・大学院生を公募し、活動実績に応じて奨学金を支給するインターンシップ・プログラムです。NPOでの活動体験を通じて、創造性や考える力、行動する力を育成することを狙いとしています。

2005年度は、海外を含む88名の応募者から選ばれた19名の奨学生が、環境、国際交流、文化・芸術、福祉などさまざまな分野のNPO19団体で活動しました。

#### 未来のカーデザイナーの育成を支援「日産デザイン オフサイトインターンシップ」

日産自動車(株)は、自動車のデザイナーを目指す学生を対象に、自動車デザインのノウハウを伝授する教育プログラムを2006年6月から開始します。東京・中目黒に設けた外部施設に、日産のデザインスタジオと同等レベルのシステムや素材を完備し、現役デザイナーが講師となって年間約40名の学生を受け入れる予定です。日産はこのプログラムを通し、学生にモノづくりのすばらしさや楽しさを伝えるとともに、実践的なトレーニングプログラムを幅広く提供することにより、日本の自動車デザインのレベル向上に貢献していきたいと考えています。

### 環境保全への理解を深める活動

#### 地元小学校において実車体験教室や出張授業を実施

2005年9月から11月、日産自動車(株)のテクニカルセンターがある神奈川県厚木市内の小学校において、日産の社員が、環境や安全の問題に関する特別授業を行いました。これは、小学校5年生の総合的学習の時間に、「未来のクルマ社会と環境について考えよう」をテーマにした日産社員による教室での授業や、屋外での代替燃料車体験、組立工場および研究・開発施設の見学などを行うプログラムです。子どもたちに楽しくリアルに学んでもらえるよう、担当した社員が担任の教師たちと授業内容を検討し、約3ヵ月間で全5回のプログラムを実施しました。参加した日産社員にとっても、自動車会社の専門知識を生かしながら、一企業市民として社会に貢献できる機会となりました。



栃木工場の敷地内で生まれ育ったカブト虫をお届け



野球を通じて少年の夢を育む  
野球教室

### 社会の進歩のためのソリューションを創成「日産科学振興財団」

日本の学術、文化の向上に寄与することを目的に1974年に設立された日産科学振興財団は、これまで主として自然科学の学術研究に対し助成を行ってきました。助成の実績は累計で約1,700件、金額は約57億円に達しています。また、1993年以降、毎年、新進気鋭の研究者を褒賞する「日産科学賞」という報奨制度を実施しています。

2006年度は、次世代のリーダーを養成する新教育プログラム、「社会の持続性を考える国際交流プログラム」と「革新的なエンジニア養成のためのリーダーシップ・プログラム」を開始します。

### 地域とのより良いパートナーシップを築く

#### 事業所の取り組み

車両生産工場や研究所などの各事業所では、近隣の地域と、つねに顔の見えるコミュニケーションを図ること

が大切であると考えています。日産がどのように貢献できるかを考えながら、それぞれの地域との協力でイベントや活動を実施しています。

たとえば、栃木工場（栃木県河内郡）では、近隣の保育園や福祉施設に四季折々の工場の自然をお届けしています。春は「竹の子」、夏は「カブト虫」、秋は「栗」、冬は「手づくりサンタクロース」。広大な工場の敷地にあふれる自然を感じてもらおうという社員の考えにより、2003年から実施しています。

また、日産の硬式野球部は、串間市宮球場（宮崎県）に約150名の地元の少年を招き野球教室を開催しました。キャンプでお世話になる地元の方々へのお返しとして始まったこの教室は、春のキャンプ期間の日曜日に開催され、市内のスポーツ団体、中学校野球部や、指導の先生方と、野球を通じて触れ合うことができました。

## Messages for Our Stakeholders



日産自動車（株）  
グローバル広報・CSR・IR本部  
広報・CSR部 主管  
藤田 雅子

### 日産らしい息の長い社会貢献活動を続けていきたい

日産は、企業活動で生み出した価値を、ビジネスとは違ったかたちで社会にお返しすることも大切な責任と考え、世界各地で企業市民としての活動に取り組んでいます。

パートナーシップによるプログラムや、日産独自のプログラム、各事業所が地域の方々とともに行う活動、社員一人ひとりによるボランティア活動など、さまざまな取り組みがありますが、教育、環境、人道支援といった分野を中心に、目的が明確で成果がきちんと見える活動を心がけています。

クルマの会社としての強みを生かすことや、社員の参加も重要です。教室に出かけて子どもたちと環境について考えたり、自然災害が発生したときは、確実に被災者に届く支援を計画するために被災地を訪ねたりしました。これからも、多くの社員が貢献活動に参加できるような仕組みを考えていきたいと思っています。

「人々の生活を豊かに」というビジョンのもと、持続可能な社会の実現のために、日産らしい息の長い活動を続けていきます。



視覚障害の人びとのためのドライビングイベントを開催（英国）



大学に研究用として「ムラーノ」を寄贈（フランス）

## 欧州での社会貢献活動

### クルマを社会のために役立てる

#### ルーマニアの孤児たちへのクリスマスプレゼント

家族が集うクリスマスの季節に、欧州日産自動車会社は形のある支援ができないかと考えました。そこで例年行っていたクリスマスカードの送付をやめ、2005年はルーマニアの孤児たちを支援している「CAREフランス」の慈善プログラムに、カードの制作や郵送にかかる予算を全額寄付しました。また、これらの子どもたちを医療施設に送迎するマイクロバスとして「プリマスター」2台を寄贈しました。

#### 欧州でのマイルストーンを記念してNGOに日産車を寄贈

2005年6月、欧州日産は、英国日産自動車製造会社で製造された400万台目の車両を、NGO「英国児童虐待防止協会」に寄贈しました。また、同年8月には、欧州での日産車販売1,000万台突破を記念して、病院で長期療養を強いられている子どもたちを支援するポルトガルのNGO「Fundacao do Gil」に「マイクラ」1台を寄贈しました。

#### フランスの工科大学の授業に「ムラーノ」を提供

技術教育を推進する活動の一環として、欧州日産は2005年6月にフランス、イブリーヌ県マントの工科大学に2台の「ムラーノ」を贈りました。この車両はニースで開かれたヨーロッパ試乗会用の試作モデルで、機械工学科の学生たちがクルマを分解して内部の構造を学ぶようにと提供したものです。プログラムがたいへん好評だったため、欧州日産では技術者を講師として派遣するなど、大学とのさらなる関係構築を図っていく予定です。

#### 英国で視覚障害の人びとのためのドライブイベントを実施

英国日産自動車会社は、盲導犬協会に賛同し、「ブラインド・ドライビング・イベント」という募金活動を実施しました。この協会は、視覚障害者がより充実した人生を送れるよう盲導犬を育てている慈善団体です。会場では視覚障害の人がクルマに乗り込み、隣に座ったインストラクターと一緒にコースを運転。イベントを通して集まった募金は、通常こうした活動で集まる金額の3倍にあたる1万8,000ポンドに上りました。このほか、テストコースやインフラ費用なども英国日産から提供されました。

## Messages for Our Stakeholders



欧州日産自動車会社（フランス）  
広報部  
ステファニー ブーホフ  
ラージェリー

### CSRのあり方：グローバルに考え、ローカルに活動する

企業が社会的責任を果たすうえで、グローバルな視点を持つことはもちろん大切です。しかし、同じように重要なのは、各地域のニーズに合った取り組みを具体的な形でステークホルダーに示していくことではないでしょうか。

欧州日産自動車会社では現在、欧州全体のCSRの動向を把握するとともに、各国におけるベストプラクティスのあり方を追求し、それらをより多くの方々に伝えていくという課題に取り組んでいます。

こうして得られた経験や日産ならではのダイバーシティを生かして、今後も欧州全体そして地域社会に貢献できるプロジェクトをそれぞれ推進していきます。

欧州ではCSRへの関心がますます高まっており、日産でも積極的にこれに貢献したいと考える社員が増えています。こうした意識の変化は日産にとって、そして社会全体にとってもたいへん心強いことだと感じています。



災害復興支援のため、WFPに車両を寄贈（インドネシア）



日産の看板広告をリサイクルしたスクールバッグを児童に寄贈（南アフリカ）



洪水被害を受けた地域に文具を支給（インド）

## 一般海外地域での社会貢献活動

### インドネシア各地に食糧物資を運ぶ国連世界食糧計画に協力

インドネシア日産自動車会社は2005年12月、国連世界食糧計画（WFP）に「テラノ」「セレナ」「フロンティア」など12台の車両を寄贈しました。その一部は、インド洋大津波で被災したアチェ州で活動するWFPにただちに送られ、その他はインドネシア各地の栄養改善プロジェクトで活用されることになりました。これによって道路事情の悪い地域へも食糧が運ばれ、さらにWFPスタッフが遠隔地に赴いて貧困で苦しむ人びとの手に食糧が届いているかどうか確認できるようになりました。インドネシアで200万人への食糧供給を目指すWFPの活動に日産車が役立てられています。

### 南アフリカの子どもたちに通学カバンを提供する「アドバッグ」

南アフリカ日産自動車会社の「アドバッグ」キャンペーンは、2006年2月に始まりました。これは、南アの貧困地域のひとつであるリンボポに住む4,000人以上の子どもたちに通学カバンを贈ろうという取り組みです。アドバッグの材料に

は日産の看板をリサイクルしたビニールが使われています。色とりどりの模様が施されたカバンは、一つひとつのデザインが異なっており、3kgまでの重さに耐えられる頑丈なつくりとなっています。

このカバンの製造は、心身に障害を抱えた子どもや大人に教育と仕事の場を提供する団体「ゲートウェイ・ビレッジ」に依頼しました。日産がゲートウェイにビニール材料を提供し、完成品を再び日産が買い取るという仕組みです。「アドバッグ」プログラムを通じて、2006年末までに2万個以上のカバンを配布したいと考えています。

### インド洋大津波で被災した子どもたちを支援

インド日産会社は2005年8月、大津波で被災した人びとを支援する「フラッド・リリーフ・プログラム」の一環として、ムンバイ地域の児童700人以上に、制服やカバン、ベッドシート、ドアマット、文房具などの生活必需品を贈りました。

子どもたちは、もっとも深刻な被害を受けた地域のひとつにあるカーリーナ市立学校の生徒で、身の回りの品々や学校の設備・機材の多くが津波で流されてしまいました。

## Messages for Our Stakeholders



中東日産会社（アラブ首長国連邦）  
広報部 シニアマネージャー  
モナール ゼイダン

### CSR活動を通じて、子どもたちの安全を守ります

日産は世界各地で事業を展開しています。そしてそれぞれの地域社会の発展に貢献するための取り組みとして、社会的責任(CSR)に注力していくことを決めました。日産がグローバルにこうした方針を打ち出したのはごく最近のことですが、「人々の生活を豊かに」を使命としている日産にとって、これはむしろ自然な成り行きといえるでしょう。この動きはまた、日産の新たな3カ年経営計画「日産バリューアップ」を補完するものでもあります。

中東日産会社では、CSR活動を通じて人びとの生活の質を向上させることを目指し、新たな試みを始めています。車内・車外を問わず子どもたちの安全を守るという重要な課題もそのひとつ。私たちはこの地域の自動車メーカーとして初めて、交通安全に関する子ども向けのアニメ映画をアラビア語で制作する予定です。

こうしたプロジェクトが、中東地域の皆さんに高く評価され、短期的にも長期的にも成果を生み出していくものと信じています。